

「朝から元気！家族で考える朝ごはんレシピコンテスト」を開催



「厚揚げとカボチャのミルク煮」

一般の部 最優秀賞 東 孝子さん



「おなか一杯フレンチトースト」

小学生の部 最優秀賞 城南小5年 田中里奈さん



「栄養満点しらす丼」

中学生の部 最優秀賞 田布施中2年 片岡北斗さん

「田布施町健康増進計画」では、目標の1つに「朝ごはんを食べよう」を掲げています。朝食の内容が「主食のみ」という人が多い現状を踏まえ、小・中学生とその保護者、全町民を対象に、「栄養バランス」と「手軽さ」に重点をおいた朝食レシピの募集を行った結果、小学生の部136点、中学生の部361点、一般の部7点の応募がありました。

受賞作品は、今後、レシピ集や町ホームページを通じて順次紹介していきますので、ぜひ参考にしてください。

図保健センター ☎52-4999

私たちと人権シリーズ ⑪③

小学校教育と

これからの社会

麻郷小学校長

田村 博孝

確か小学校低学年の頃のことだったと思う。母に連れられて、柳井駅前にあったデパートに買い物に行ったときのことだった。母と少し離れて店内を歩いていたとき、中高校生と思われる男子生徒に出会った。その生徒は、左足が不自由な状態で、両脇で松葉杖を使っていた。初めて見る光景に興味を引かれ、立ち止まって見ていると、「何かいやー」と、威嚇するような言葉を投げつけられた。はっとして、その場を急いで去ったが、今でもそのときの光景を鮮明に覚えている。子ども心に、初めて見た松葉杖に興味を引かれたことと、相手の声によって何か後ろめたさを覚えたことを記憶している。

教育の世界に入り、改めて人権というものを教える立場に立ったとき、心の中での原風景として、このときのこと、が、よみがえってくる。

小学校へ入学して間もない子どもたちを見ていると、善悪に関するある程度の規範意識はもっているものの、や

はり興味・関心に突き動かされて行動することが多い。行動の動機となっているのは、自己の欲求であり、他人への思いやりなどは、まだまだ見られない。そのため、小学校教育においては、自己中心的な世界から抜け出させ、社会通念上認められている道徳的規範を身に付けさせることが、大きなねらいの一つとなっている。

今、「共生社会」「持続可能な社会」という言葉が、よく見聞きされる。「共生社会」とは、誰もが互いに仲良くし、助け合って生きていこうとする社会を指している。そして、「持続可能な社会」とは、「共生」という意識の下に人々が協力し、環境問題や文化的対立などを克服して、次の世代が今以上に豊かな暮らしができるような社会にしていこうという考え方である。

子どもたちは、地域で育ち、成長とともに生活の場を拡げていく。グローバル化が進展し、交流の場が国境を越えて拡大している現代、世界的な視野で「共生」ということを考えなければならぬ。そのような人材を育成する原点の一つとして、小学校教育があるような気がする。